

関 係 各 位

愛知県農業総合試験場長

病害虫発生予察情報について（送付）

このことについて、下記のとおり発表しましたので、参考にしてください。

記

令和7年度病害虫発生予報第10号（1月）

担 当 環境基盤研究部病害虫防除室
電 話 0561-41-9513
ファックス 0561-63-7820

令和7年度病害虫発生予報第10号（1月）

令和7年12月25日
愛 知 県

野菜

・予報内容

| 作物名 | 病害虫名 | 発生量 (発生時期) | 主な 発生地域 | 予報の根拠 | 予報へ の影響 |
|--------------|-----------------|---------------|------------|-----------------|------------|
| キャベツ | コナガ | やや少ない | 県全域 | 12月下旬の発生量はやや少ない | 一 |
| トマト (施設) | 疫病 | 平年並 | 県全域 | 12月下旬の発生量は平年並 | ± |
| | 灰色かび病 | 平年並 | 県全域 | 12月下旬の発生量は平年並 | ± |
| | 葉かび病 | 平年並 | 県全域 | 12月下旬の発生量は平年並 | ± |
| ナス (施設) | うどんこ病 | やや多い | 県全域 | 12月下旬の発生量はやや多い | + |
| | 灰色かび病 | 平年並 | 県全域 | 12月下旬の発生量は平年並 | ± |
| | ミナミキイロ アザミウマ | やや多い | 県全域 | 12月下旬の発生量はやや多い | + |
| | ハダニ類 | 平年並 | 県全域 | 12月下旬の発生量は平年並 | ± |
| キュウリ (施設) | ベと病 | やや少ない | 県全域 | 12月下旬の発生量はやや少ない | 一 |
| | うどんこ病 | 平年並 | 県全域 | 12月下旬の発生量は平年並 | ± |
| | 灰色かび病 | 平年並 | 県全域 | 12月下旬の発生量は平年並 | ± |
| | ミナミキイロ アザミウマ | やや多い | 県全域 | 12月下旬の発生量はやや多い | + |
| イチゴ (施設) | 灰色かび病 | 平年並 | 県全域 | 12月下旬の発生量は平年並 | ± |
| | うどんこ病 | 平年並 | 県全域 | 12月下旬の発生量は平年並 | ± |
| | ハダニ類 | やや少ない | 県全域 | 12月下旬の発生量はやや少ない | 一 |

・防除対策

[ナス（施設）・うどんこ病]

カリグリーン、ミギワ10フロアブルなどで防除しましょう。

[ナス（施設）・ミナミキイロアザミウマ]

12月3日発表の「ミナミキイロアザミウマ情報第2号」を参考にしてください。

[キュウリ（施設）・ミナミキイロアザミウマ]

12月3日発表の「ミナミキイロアザミウマ情報第2号」を参考にしてください。

・留意事項

トマトでは、コナジラミ類がトマト黄化病の病原ウイルス（T o C V）を媒介し、タバココナジラミがトマト黄化葉巻病の病原ウイルス（T Y L C V）を媒介します。12月上旬のコナジラミ類の成虫寄生枝率は平年並であり、12月下旬のトマト黄化葉巻病の発病株率はやや多い状況です。10月1日発表の「コナジラミ類情報第2号（トマト）」を参考に、発生ほ場は防除を行いましょう。

ナス、キュウリ、イチゴで灰色かび病が発生しているほ場があります。被害果や被害葉等は伝染源となるので、見つけ次第ほ場外に持ち出し、適切に処分しましょう。暖房機の稼働時間が短くなる場合、施設内では多湿状態が続き、発病しやすくなるため注意しましょう。

作物

・留意事項

スクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）は、水田や水路で土中に潜って越冬します。本年スクミリンゴガイによる被害が見られたほ場では越冬量を減らすため防除対策を行いましょう。詳細は、12月3日発表の「スクミリンゴガイ情報第2号（水稻）」を参照してください。

発生量に関する用語については、ホームページ「あいち病害虫情報」（アドレス：<https://www.pref.aichi.jp/site/byogaichu/yougo.html>）を参照してください。

参考

東海地方 1か月予報（名古屋地方気象台 12月25日発表）

〈予想される向こう1か月の天候〉

平年に比べ晴れの日が多いでしょう。

〈向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率〉

〔気温〕 低い：40% 平年並：30% 高い：30%

〔降水量〕 少ない：40% 平年並：40% 多い：20%

〔日照時間〕 少ない：20% 平年並：40% 多い：40%